
激突
DUEL



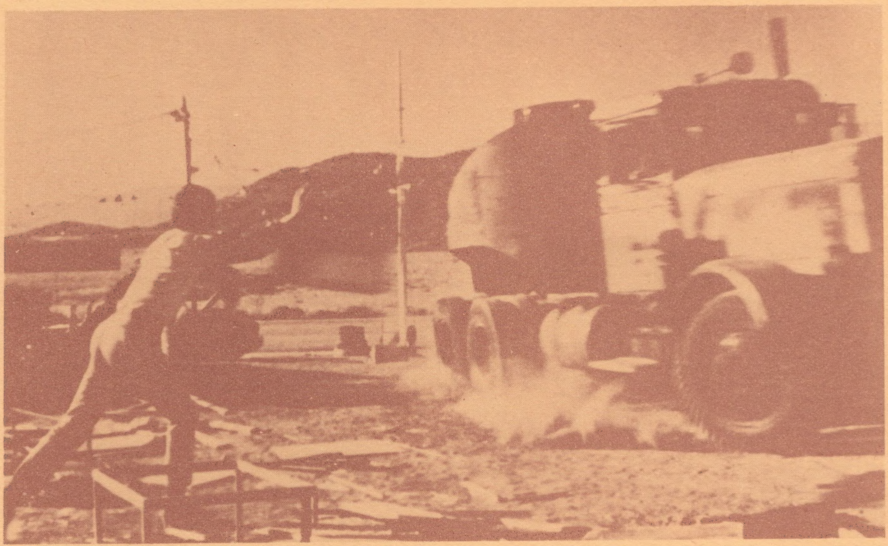


DUEL

激突！

カラー作品

とある町のハイウエーから　はじまる、恐怖の500マイル――！



ユニヴァーサル映画■CIC配給



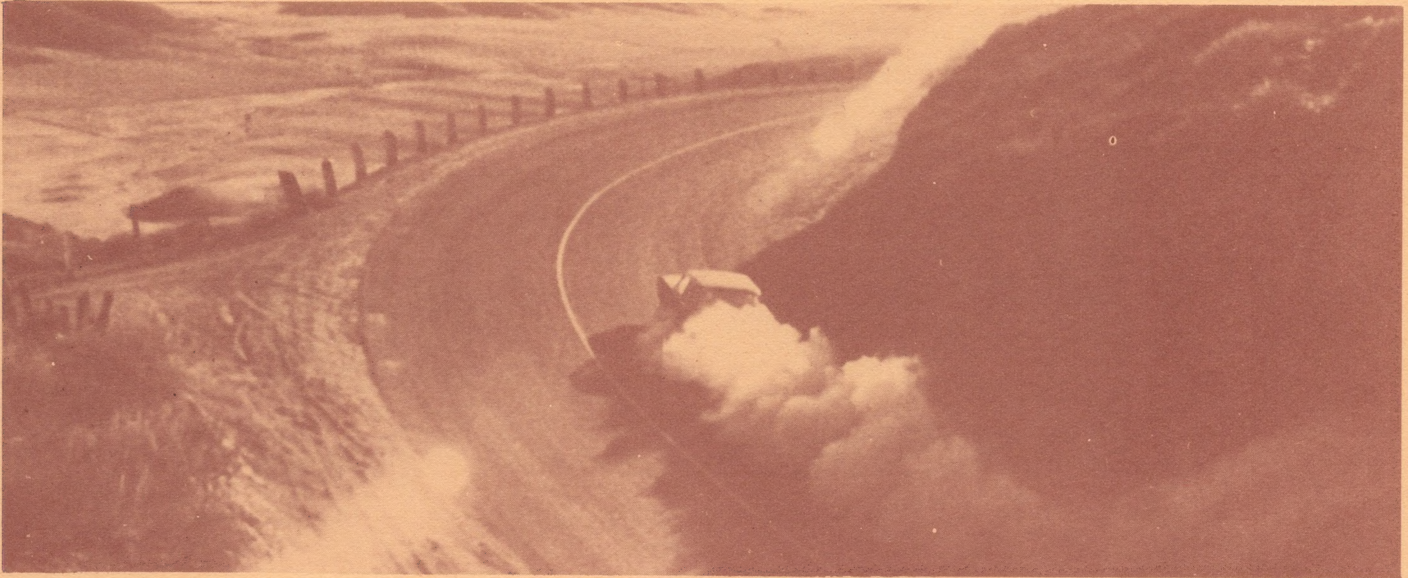
THE STAFF

Produced by	GEORGE ECKSTEIN
Directed by	STEVEN SPIELBERG
Screenplay by	RICHARD MATHESON
Photogrphy by	JACK A. MARTA
Art Director	ROBERT S. SMITH
Set Decorations	S. BLYDENBURGH
Sound	EDWIN S. HALL
Film Editor	FRANK MORRISS
Music by	BILLY GOLDENBERG

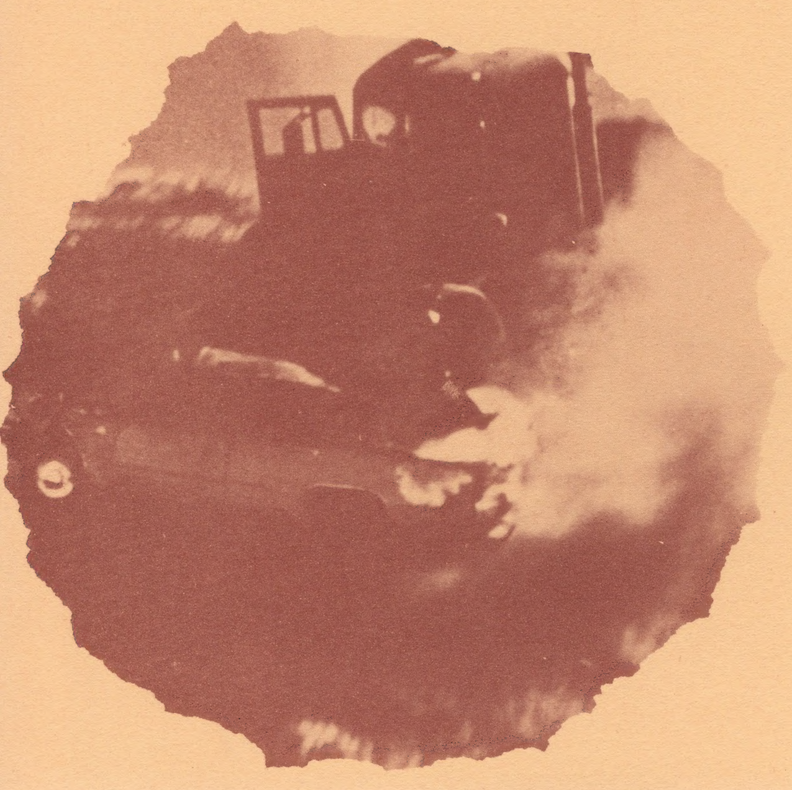
THE CAST

David Mann	DENNIS WEAVER
Mrs. Mann	JACQUELINE SCOTT
Cafe Owner	EDDIE FIRESTONE
Bus Driver	LOU FRIZZELL
Man in Cafe	GENE DYNARSKI
Lady at Snakerama	LUCILLE BENSON
Gas Station Attendant	TIM HERBERT
Old Man	CHARLES SEEL
Waitress	SHIRLEY O'HARA







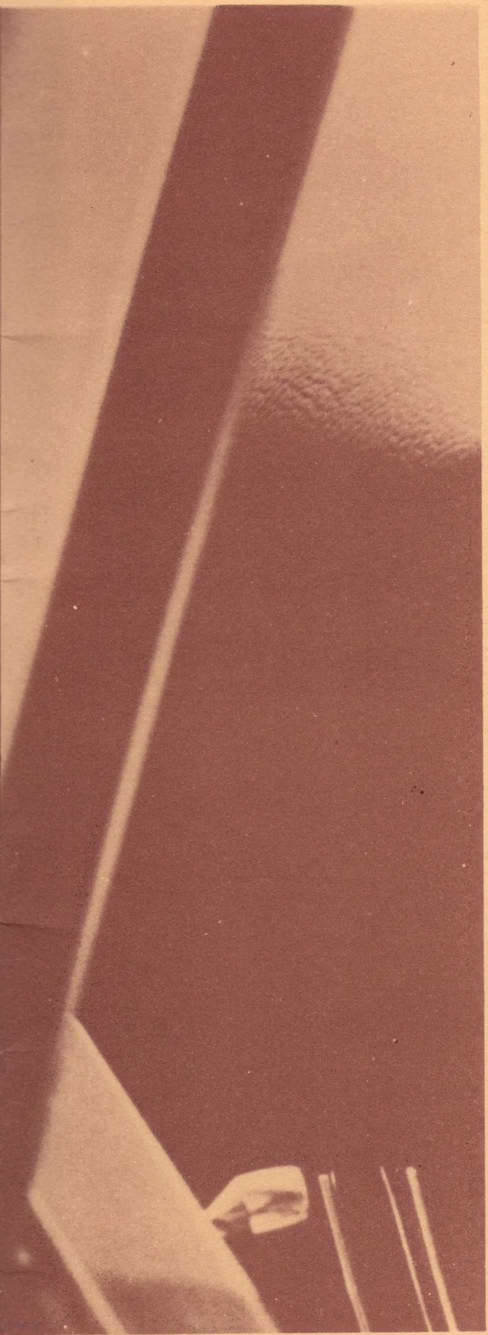


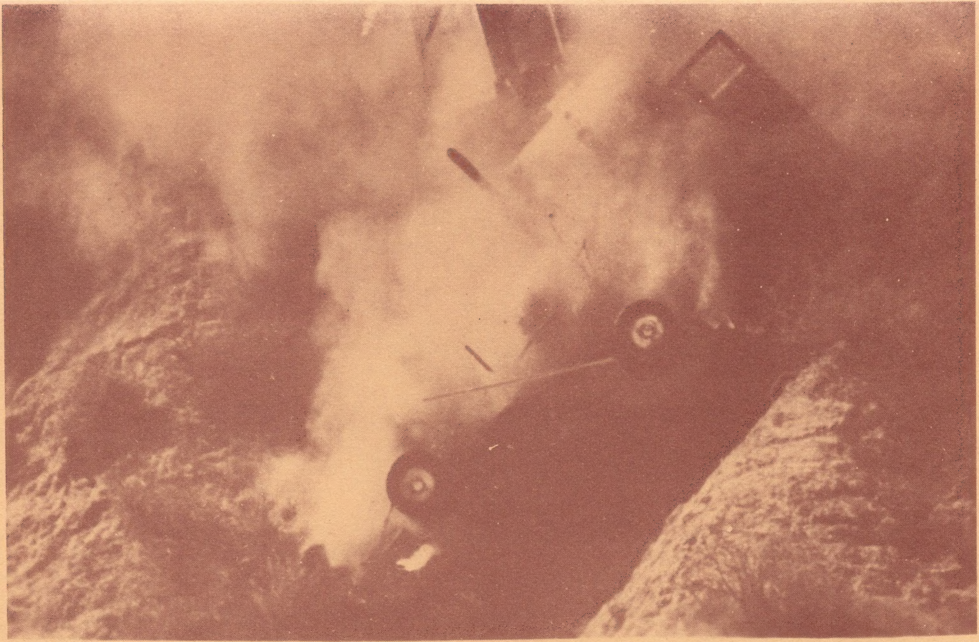
■スタッフ

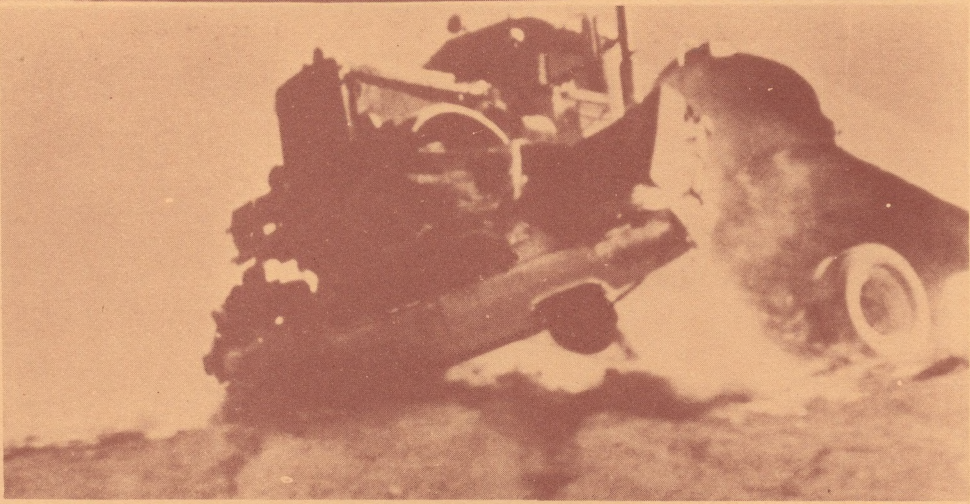
製作……………………………ジョージ・エクスタイン
監督……………………………スティーブン・スピルバーグ
原作・脚本……………………リチャード・マチソン
撮影……………………………ジャック・A・マータ
アート・ディレクター………ロバート・S・スミス
セット…………………………S．ブライデンバーグ
音響……………………………エドウィン・S・ホール
編集……………………………フランク・モリス
音楽……………………………ビリー・ゴールデンバーグ

■ キャスト

デビッド・マン………………デニス・ウィーバー
マンの妻………………………ジャクリーン・スコット
ドライブ・インの主人………エディ・フィルストーン
バスの運転手…………………ルー・フリゼル
ドライブ・インの男…………ジン・デナースキ
ガソリン・スタンドの女……ルシル・ベンソン
ガソリン・スタンドの男……ティム・ハーバート
老人……………………………チャールズ・シール
ウエイトレス…………………シャーリー・オハラ





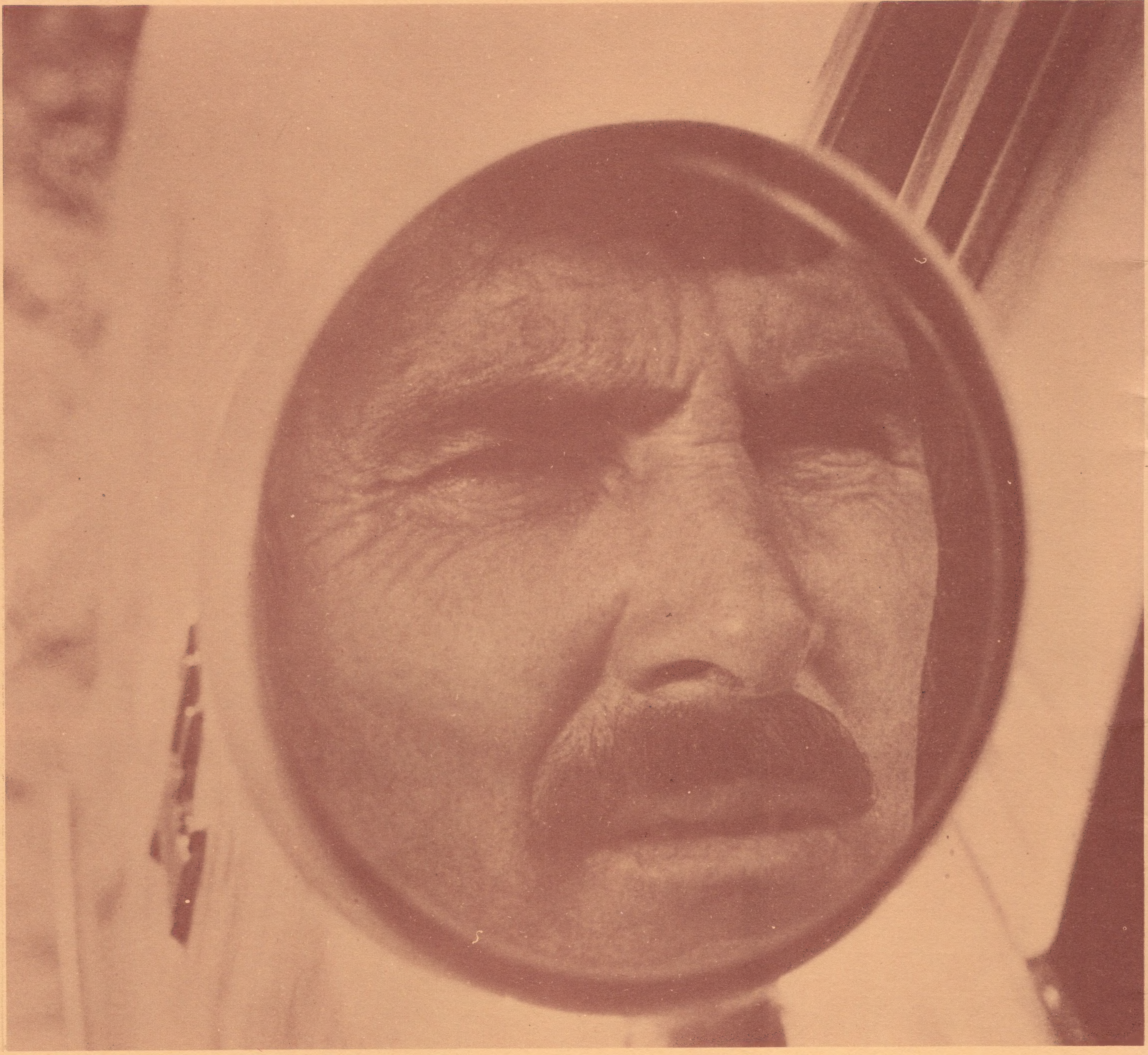


40トンの殺人トラックに戦慄が走る！
凄まじい迫力で追いまくられる車
500マイルのデッドヒート！
かつてない恐怖と衝撃！



■解　説

国道を走る40トン・タンク・ローリーを一台の乗用車が注意深く追い越す、だがこのなにげない追い越しから乗用車のドライバー（デニス・ウィーバー）にとって〝死のゲーム〟が始まる。まるでモンスターのようなこのタンクローリーは猛烈なスピードで抜き返えし、やがてむきだしの殺意へと変わる。こうした迫力と恐怖がふんだんに盛り込まれた他に類を見ないスリルとサスペンスの作品。



始めから終りまでタンク・ローリーの運転手は姿を見せない。それだけにスリルとサスペンスが一層盛り上がり、逃げ場を失った乗用車のドライバーの恐怖を浮き彫りにして、見る者の手に汗を握らせる。

車を運転する人なら少なからず大型トラックの無謀ぶりを経験している。脚本はこうした自らの体験からヒントを得たリチャード・マチソンが、殺意にまで発展するという現代の恐怖とでもいうべき小説を〝プレイボーイ〟誌に発表、この評判となった自らの原作を脚色した。

監督は才気あふれるスティーブン・スピルバーグ。TV出身の新鋭で、人気番組〝ナイト・ギャラリー〟でジョーン・クロフォードを演出して認められ、この作品でも鋭い感覚とスピード感ある演出をみせている。

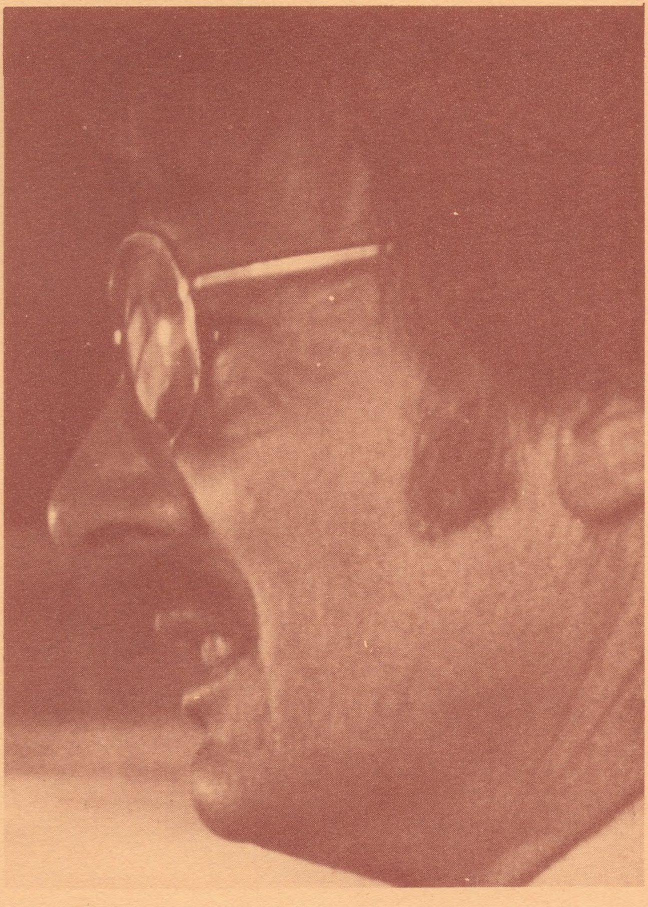
撮影監督のジャック・A・マータは巨大なトラックがまるで生き物のように乗用車を追いかける連続をアップと全体的アクションでリアリスティックに撮りまくりその物凄さと迫力は画面を圧倒する。

出演は、乗用車を運転する男に「十二人の怒れる男」や「砦の29人」などのデニス・ウィーバーで主要俳優は彼一人。平均的なアメリカ男が徐々に死へと追いやられ、意外な結末をむかえるまでを見事に演じている。彼はTV〝ガンスモーク〟でエミー賞（助演賞）を獲得したことのある実力派。彼の作品中の走行距離は、三千マイル以上という、これはニューヨークとサンフランシスコを往復できる長さである。体力の方も超一級の実力派。

殺人機械と化したトラック、死の危険から逃れようとする男。トップ・サスペンスとして記憶に残る作品である。

（一九七二年度作品／上映時間一時間三〇分）





■ デニス・ウィーバー

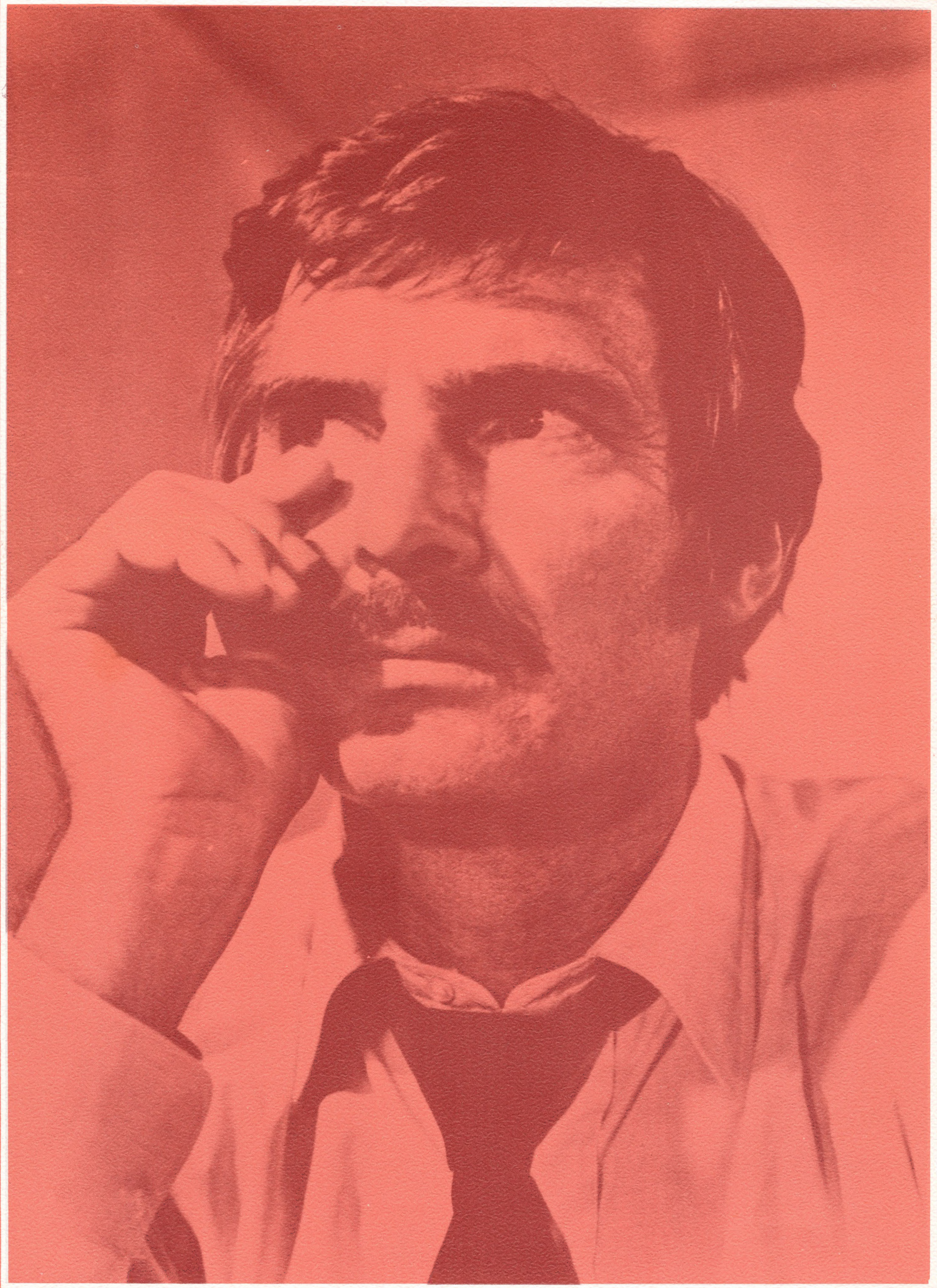
一九二五年六月四日モンタナ州ジョプリンの生まれ（47才）。

海軍を経てオクラホマ大学に学び、在学中学生演劇に活躍しながら、オリンピック予選に出場したほどのスポーツ（陸上）マン。のちにブロードウェイから『愛しのシバよ帰れ』でデビュー、52年の映画デビュー作も同じ「愛しのシバよ帰れ」。TVでは「ガンスモーク」で人気者となり〝エミー賞〟（助演賞）を獲得、現在二児の父。

出演作品＝「決闘1対3」52「征服されざる西部」52「七匹の無法者」55「十二人の怒れる男」57「黒い罠」58「砦の29人」66「スレッジ」70



Denis Weaver














■プロダクション・ノート

◆主要俳優はデニス・ウィーバー一人。徐々に死へと追いやられていく彼の演技はみごとだが、その意外な結末をむかえるまでの車との格闘は大変な体力を必要とした。撮影の前に疲れた感じをだすため、くたくたになるまでハイウェイをいったりきたり走りまわり、そのうえこの作品で彼が走行した距離は三千マイル以上だという。いずれにしても俳優にしては大変な体力の持ち主である。



◆あらゆるアングルを出すために五台のカメラをフルに駆使して全体的アクションとアップのアクションを極めて効果的に再現した。

プロセスのカットや、特殊撮影を一切使わずに、現実的でしかも絶対的にリアリスティックな条件のもとでここまで恐怖と迫力を盛り上げたのは撮影監督ジャック・A・マータの実力の程といえる。

◆映画の中で使われた巨大なガソリン・トレーラーの値段は一万ドル。同じトラックは二つとない特製仕立て。若手ディレクター、スティーブン・スピルバーグは撮影開始前にこう言っている。

「撮影をはじめてからトラックにもしものことがあったらお手上げだ」

と、いうだけあってこの映画の主人公も大迫力の〝怪物〟にすっかりお手上げだ。

◆主演デニス・ウィーバーはその興奮の程を

〝これまでにこれほどエキサイティングなことをしたことがなかった〟と身をのり出して

〝これよりもよい役柄にはどんな役者も今年はありつけないだろう、今でも朝、目をさまして自分にこの役がまわってきた幸運に自分自身おどろきをおぼえるくらいだ〟と語っている。

サスペンスの裂け目から飛びだした
衝撃のカー・アクション！
'73 新しい恐怖をハイウエーに見た！



ショッキング

あなたが快適なスピードでハイウエーをドライブしている。一台の大きなダンプが黒煙をあげて目の前に立ちはだかる。あなたはそれを追い抜く。だが、そのダンプは物凄い勢いで抜き返す。一瞬の戦慄が走る。悪意か、きまぐれか、ダンプは行く手をはばむ。おがむようにして一気に抜き去る。だが狂ったようにダンプがあなたの車を追う――すごい迫力で気違いのように――。あなたの脳裡を死がかすめる。

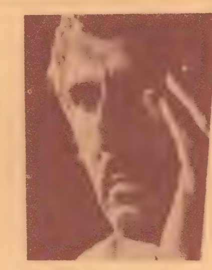
なにげなしに踏んだアクセルがどうにも避けられない恐怖を呼び起す。〝激突〟はかつてない恐怖と衝撃の中にあなたを引き込んで行きます。

恐怖と戦慄！















デッス・ロード

あるドライバーは妻子と小市民生活を楽しみながら、セールスマンをしている。集金のためいつものように約束の時間を追ってハンドルを握った。

ありふれた4ドア・セダンのドライバーがハイウエーをひた走る。事件はこのセダンのドライバー（デニス・ウィーバー）が巨大な40トン・トラックを追い抜いたことから始まる。

この追い抜かれた40トン・トラックは執拗な死への恐怖を浴びせる。一つ一つのハンドルさばきが待ちうける死への誘いだ。ひとつ気のないハイウエーで逃げ場を失ったドライバーは気違いのようになってのたうつ。だが、彼の叫び声をけちらすかのように凄じい40トン・トラックの殺意は激しさを増す。

轟音をならした列車がセダンをはばむ、後からはトラックがうなりをあげて線路に押し込もうとアクセルをふむ。セダンのブレーキは40トンの力には勝てない。戦慄のドライバーはさらに恐怖への道をたどる。

執拗に追いまくる40トン・トラックの運転手は最後まで姿を見せない、だがこの追っかけの中でまるでトラックは生き物のように性格をおびてくる。それはハイウエーのモンスターだ。

クライマックス

限界をはるかに越えて、追いまくられたドライバーは〝猫とねずみ〟の死のゲームを狂気してころげまわる、決定的な打撃を狙ってトラックは断崖の淵まで彼を追いつめる。夕陽だけが静かにみつめている、あなたと一緒にドライバーの死の恐怖が……





■ストーリー

デビッド・マン（デニス・ウィーバー）は旅をして歩くセールスマンである。高速づたいにカルフォルニア州の北から南まで一度に何時間も車をとばす。今回の旅は気晴らしに景色のよい田舎道を選んだ。

途中、トレーラーを引きながら黒煙をモクモクと吐く巨大なガソリン・タンカーに道をはばまれたデビッドは、アクセルを踏んでトラックを追い越す。それも束の間トラックは轟音をたてて抜き返えすとデビッドの車スレスレにまわりこみ、彼は急ブレーキをかけざるを得なくなる。この無鉄砲な運転ぶりに腹を立て、デビッドは再びトラックを追い抜きスピードをあげてタンカーとの距離をひろげていった。

ガソリンスタンドでの給油後、旅を続ける。だが例のタンカーが猛スピードで追いついてくるのを見て胆をつぶす。タンカーは彼の車を追い越すと再びスピードをおとしてのろのろ運転をする。こんなスピードでは集金の約束時間に遅れてしまう。故意に防害していることがわかったデビッドは必死になって追い越そうとするがそのつど道を阻まれる。狭い先の見えないカーブにさしかかった時、トラックの運転手は手を振って彼に追い越しを許す。嬉んで隣りのレーンに乗り入れ、角を曲ると——青いセダンが矢のように向ってくる。一瞬の差でこの対向車をかわしたデビッドは、トラックの運転手が全く罪もない通りすがりの人を殺そうとしたことを認識して忙然とする。途中の林道を利用してやっとの思いで追い抜いたものの、トラックは信じられないスピードでデビッドの車に迫まり、ガンガンぶつけてきた。

デビッドはこの得体の知れない攻撃の手から、タイヤを横すべりさせながら車をドライブ・インのさくにぶつけてやっとのがれた。

恐怖と衝撃の連続







　ドライブ・インで一息ついた彼の目は駐車場にとまっているトラックに釘づけになった。中の客がみんな犯人にみえてしまう。恐怖と不安が彼を一層いらだたせ、遂に客の一人に喰ってかかる。そんなさわぎをよそにトラックは発車した。

　気を立てなおした彼は旅を続ける。途中、悪路に車輪をとられたスクール・バスに出合い、後から押したものの、彼の車の馬力では頑として動こうとしない。

ふと気がつくといつの間にかトラックがせまってきた。あわてて逃げだしたデビッドが、一息ついてふりかえると、動けないバスをそのトラックが押して道路に戻してやっているところであった。トラックの運転手が悪い奴でないと知ったデビッドは目的地へ急ぐ。

　突然、踏切で列車の通過を待っていたデビッドの車にトラックが体当たりをかけてきた。40トンの力の前にはいくらブレーキを踏んでも乗用車はどんどん前へ押し出される。間一髪で列車をやり過ごし、道路を飛びだしたデビッドの横をトラックは何ごともなかったように走り去った。

　恐怖をおぼえたデビッドは次のガソリン・スタンドで給油をすると、公衆電話で警察に通報したものの、電話口の係官はさっぱりとりあってくれない。その公衆電話を目がけてトラックが暴走してきた。電話ボックスを飛びだしたデビッドを尻目に電話ボックスをメチャメチャに破ってタンカーは暴走を続ける。あわてて、自分の車に乗ったデビッドはフルスピードで逃げだした。それを追ってトラックが信じられないスピードでせまっていく………。

　こうして、殺意にみちた巨大なトラックから必死に逃げるデビッドは、その恐怖からイチかバチか命を賭けた捨て身の脱出をはかるのだった。

■デイリー・バラエティ誌評

〝ディレクター、スティーブン・スピルバーグは絶妙に統制されたクライマックスへ向かって、一歩一歩論理的に積みあげていく。未知と戦うウィーバーの演技力は信じがたいほど説得力にあふれている。……巧みに制作された非の打ちどころのないプロダクション、みごとな映像、……〟









DUEL